

石巻市の復興まちづくり (第62回)

このコーナーは、今後の復興まちづくりに関する情報をお知らせします。

今回は、産業復興の一環として取り組まれている制度・事業について、概要と取り組み状況を紹介します。

産業の復興

本市の産業は、水産業を主とした1次産業がメインですが、近年の1次産業従事者の高齢化や担い手不足といった全国的な課題に加え、東日本大震災後の離職への対応が課題となっています。市では、被災した施設の復旧のみならず、今後の産業振興を見据え、さまざまな取り組みを行っています。

今回は、市が取り組む産業の復興・振興に関する制度や事業について紹介します。

6次産業化による地産地消の推進

6次産業化とは？

6次産業化とは、「農林水産業（1次産業）が、加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）と連携・融合する取り組み」で、1次産業 × 2次産業 × 3次産業 = 「6次産業」で表されます。農林水産物の「生産物が元々持っている価値をさらに高める」ことにより、事業者の経営多角化や所得（収入）向上を推進していくことを目的としています。

また、生産物の価値を上げるため、農林漁業者が農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工、流通・販売にも取り組み、農林水産業を活性化させ農山漁村の経済を豊かにしていこうとするものです。



6次産業化・地産地消推進助成金制度

本市では、農林漁業者と地域のさまざまな事業者との連携を強化し、地域資源の高付加価値化を図るため、1次産業・2次産業・3次産業を営む事業者がネットワークを形成して取り組む新商品開発等の事業に対する『6次産業化・地産地消推進助成金制度』を設けています。

対象となる事業

- 新商品開発事業
- 販路開拓事業
- 施設整備事業

助成対象経費

- 旅費、新商品開発に係る謝金、原材料費
- 施設改修や整備に要する経費、機械の導入に要する経費 など

6次産業化・地産地消推進センターの紹介

石巻市6次産業化・地産地消推進センターは、6次産業化に取り組む事業者を支援するため、市が設置する窓口です。

行政サービスの一環として、市内の事業者に対する6次産業化へのサポートや、次世代の産業を担う人材育成・情報発信、販路開拓・プロモーションの支援を無料で行っています。

(所在地：開成一丁目 石巻ルネッサンス館内 ☎98-9356)



問 商工課 (内線 3524)

水産業の振興

漁業従事者が減少する中、市の基幹産業である水産業の新たな担い手を確保するため、『水産業担い手育成事業』を行っています。

水産業担い手センター運営事業

漁業就業希望者の短・中期の住まいや研修の場として、水産業担い手センターを設置しています。平成27年に荻浜地区、平成28年度に泉町地区と北上地区に担い手センターを設置しました。



北上地区担い手センター



北上地区担い手センター (建物内部)

漁師学校の実施

漁業に興味のある人が、実際の漁業作業や生活を体験できる1泊2日の短期研修を実施しました。

実施期間
平成29年7月1日・2日
研修内容
銀鮭養殖作業など



漁師学校の様子

水産業リクルートフェアの実施

新規就業者を確保するため、首都圏で市独自の漁業の魅力を感じられる雰囲気と、漁師とのコミュニケーションが取れる水産業リクルートフェアを開催しました。

開催日時
平成29年1月29日
イベント内容
VR漁業体験、面接・相談など



リクルートフェアの様子

石巻百漁

市のさまざまな漁業の情報を網羅した「石巻百漁 (いしのみきひゃくりょう)」を作成し、担い手センター事業の教科書として活用しています。



石巻百漁

問 水産課 (内線 3519)

新しい特産品の研究開発

市の地域特性を生かした「地域の宝」となる特産品の研究開発のため、『地域の宝研究開発事業』を行っています。本事業の一環として、東北地方であまり栽培されていないオリーブを新たな特産品とするため、北上、大川、雄勝、網地島の4地区で栽培実験に取り組んでいます。

また、平成29年1月に「石巻市北限オリーブ研究会」を設立し、栽培や商品開発のための組織を設立しました。

植樹したオリーブの木は無事越冬・結実し、新たな特産品として着々と成長しています。



問 農林課 (内線 3553)